

平成28年度 学校評価書

I 経営の重点に関わること

学校名: 静岡市立高等学校 (定時制)

重点目標	自己評価	学校関係者評価委員会から
1 学校教育目標: 責任ある行動力と自主的・協調的な精神の涵養を図り、社会人として望ましい職業観や勤労観を身に付けた健全な勤労学生を育成する。		
2 重点目標 (1)生徒一人ひとりに寄り添った授業展開 (2)生徒一人ひとりに寄り添った授業展開(2)生徒の情報と教育課題の速やかな共有(3)達成感や成就感が得られる機会の設定等を通して、組織的な定時制教育を推進する。	①教育活動を計画的に推進し、評価の改善に努める。【教務課・全職員】 【学校説明】 計画的かつ系統的な教育活動に取り組んだ。指導と評価の一体化を図るために、各教科の指導内容の記録を取るなどして年間指導計画を点検し、平成29年度のシラバス完成への準備を行った。 ②校内研修を計画的に実施し、指導力の向上に努める。【管理職・教務課】 【学校説明】 多様な生徒一人一人の実情に寄り添い、教員の指導力の向上を図るためにも、特別支援教育をはじめとする様々な分野での全日制主催の校内研修に積極的に参加した。次年度以降は、定時制課程独自の校内研修を計画的に実施したい。	A A
(2)生徒の情報と教育課題の速やかな共有	①生徒の(些細な)変化を見逃さず、タイムリーな情報共有に務め「問題行動の未然防止」及び「生徒の成長を促す生徒指導」を実践する。【全職員】 【学校説明】 生徒の身体的及び精神的な変化を見落とさないように、毎日の職員打合せの後に、気になる生徒の情報共有し、意図的かつ即時的な対応が出来るように努める。特別支援教育をはじめとする校内研修を充実させ、多様な生徒一人一人の実情に寄り添うことが出来る指導力の向上に努めた。 ②校外における研修等(講演会・講習会含む)への職員の積極的な参加を推進する。また、研修参加後には報告会を開き、研修内容を職員全員で共有する習慣を定着させる。【管理職】 【学校説明】 特別支援教育において、特別支援コーディネーター(担当)による積極的な研修及び講習会等への参加を推奨した。また、各分掌課長をはじめ、講演会及び講習会を含め校外における研修に参加した教員は、その内容を要約し伝達することを徹底し、喫緊の教育課題等を職員全体で共有する習慣を定着させ、教員各人の指導力向上を図った。	A A
(3)達成感や成就感が得られる機会の設定	①学校行事に、生徒一人一人が主体的に取り組めるようにする。【管理職・全職員】 【学校説明】 既存の学校行事を生徒が主体的な取組みによって体験できるように、教員がよき支援者になることを目指す。①事前の準備 ②当日の進行 ③ふりかえり活動の定着を目指し、「球技大会」「心の教育推進事業 講演会」では、「対話的」「主体的」「深い学び」ができ、アクティブラーニングを実践することができた。 ②「ナイトウォーク(試行)」に参加する(希望者)【管理職・全職員】 【学校説明】 ・21kmを仲間とともに踏破することで、困苦に耐えて物事を成就する喜びを味わい、暗夜の長時間歩行によって心を澄まし、自己の在り方・生き方について思いを深める行事として計画した。夏休み前に、保護者同意のもと希望者を募ったところ、生徒18人中8人が参加を希望した。全日制のものを参考に、定時制独自の実施要項を作成し、服装やマメ予防、行動食や給水等についての説明会を2回行った。2学期に入り「保健体育」の時間にランニングコースを利用して15分間歩行を取り入れるなど体力面の確保に努めた。当日は残念ながら雨天のためナイトウォークは中止となったが、自分の練習として「ウォーキング企画」等に積極的に参加した生徒や当日に体調を崩したくない一心でマスクを着用して風邪予防に努めた生徒がいた。また、アルバイトの給与で靴を新調した生徒もいた。安全面では白か黄色系統が望ましいと話したところ、保護者がが用意してくれたと喜んでいていた生徒がいるなど、保護者もこの行事に理解を示し協力していただいた。初の試みである「ナイトウォーク」に向けて前向きに各々が準備をしている様子が伝わってきたことは大きな収穫となった。	A A
		A A A A

II 各指導部・領域等に関わること

大項目	中項目	評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から
1 教育課程 学習指導	(1)確かな学力の育成 【市共通項目1】	①規則正しい生活習慣を定着させ、学習活動に積極的に取り組む調和のとれた高校生を育成する。【各学年】 【学校説明】〔1年部〕 ・年間の出席率80%以上、遅刻率10%以下にすることを目標として掲げ、SHRやHR活動等を通じて、「時」を守り「場」をわかまえることの大切さを説諭するなど、教員が日常的に率先垂範し、基本的な生活習慣の確立を図った。 【学校説明】〔2年部〕 ・HR活動等で、将来を見据えた学習の必要性を意図的かつ継続的に説いていくことで、職業観を豊かにさせ、就業や進学に対して具体的な努力目標を持てるように指導した。 【学校説明】〔3年部〕 ・毎日の授業を大切にさせ、学校や職場(アルバイト先)で良好な人間関係を築くとともに、常識ある行動が取れ、マナーが身につくような指導支援を行った。 【学校説明】〔4年部〕 ・「全員が進路実現し揃って卒業する。」という目標を実現させるために勉学と勤労を両立させ、これまで培ってきた人間関係をより良好に深めながら、また、自立してお互いに高め合える存在となれるよう指導支援した。 ②4年間を通して学習活動を含めたキャリア教育を充実する。【各学年】 【学校説明】〔1年部〕 ・中学校までの学び直しに重点を置き、個に応じて学習の躓きに寄り添った指導支援を行い、基礎学力の伸長を図った。 【学校説明】〔2年部〕 ・面談等を活用し生徒理解に努め、個のニーズや能力に応じた学習指導を行い、学習に対する意欲と自信が向上する指導を行った。 【学校説明】〔3年部〕 ・卒業生の体験談等を紹介したり、DVD視聴等で様々な職業紹介をし、職業観や将来に向けた学力・技術の向上とキャリアデザインが描けるような指導支援を行った。 【学校説明】〔4年部〕 ・進路実現とともに将来に向けたキャリアデザインが描ける指導支援を目指して、二者面談及び三者面談を充実させた。夏休業中に就職希望者には企業訪問1社以上、進学希望者には学校見学を1校以上実施出来るように、計画及び連絡調整段階から綿密に指導支援した。	A A	A A
	(2)道徳教育の充実 【市共通項目2】	①社会貢献活動(ボランティア)や地域社会に積極的に参加する生徒を育む。【生徒会活動】 【学校説明】 ・生徒会役員が中心となり、熊本地震への義援金を募った。(4・5・6月の3ヶ月間計回)募金総額13,751円を日赤熊本地震義援金として、静岡赤十字社から振り込んだ。(6月27日) ・ペットボトルのリサイクル活動を推進した。	A	A
	(3)特別活動の充実 【市共通項目3】	①学校行事やHR活動等において、生徒が主体的に活動する機会を増やし、より多くの達成感や成就感を体験させる。【生徒課・全職員】 【学校説明】 ・昨年度までは、教員による支援に頼らざるを得ない部分が大きかったが、本年度は生徒会新聞の発行(各学期1回以上)をはじめ、学校行事一つ一つが生徒会役員による主体的企画及び運営となるよう指導支援し、学年の枠を超えて生徒が意欲的に取り組める環境整備をした。	A	A

2 生徒指導	(1)一人一人を大切に した指導 【市共通項目4】	①清々しい挨拶ができ、品位ある身だしなみ、正しい言葉遣いが習慣化した生徒を育成する。 【全職員】 【学校説明】 ・身だしなみや正しい言葉遣いが定着するように、全職員が「あいさつ+α」や「ベップトーク（日常的な励ましの言葉掛け）」を実践した。また、規範意識の高い人材育成を実現するために、教育活動のすべての場面で「時」「場」「人」を意識させた指導支援を徹底した。その成果は如実に表れ、生徒の傾聴スキルは飛躍的に向上した。また、生徒全員が、ごく自然体であいさつすることが出来るようになり、全日制の職員からも「定時制の生徒はみなさん感じが良いですね。」との感想をいただいた。生徒対象の講演会でも、講師の方々から、「自分の言葉でちゃんと意志を伝えられる生徒さんが多いですね。」とお褒めいただく場面が増えた。	A
3 進路指導	(1)進路指導の充実	①キャリア教育の推進をし、職業意識の高揚を図る。【進路課・各学年】 【学校説明】 ・現在、進路指導（キャリア教育全般）の見直しを図り、7月から月に一度のペースで職員全体で会議を開き、本校在籍中に「身につけさせたい力」は何かを協議共有し、年次目標や学校行事の精査及び価値付けなどを行っている。平成29年度中の完成を目指している。 ②社会人として望ましい職業観や労働観を養い、在学時や卒業時の就職率を高める。 【進路課・各学年】 【学校説明】 ・1年生は5月連休以降を目処に就業（アルバイト）斡旋をしており、在学が恒常的に就業している環境を推奨した。昼間は就業し夜間に学習する定時制過程本来の生活習慣を継続的に体験させ、職場訪問（年1回）するなど、生徒の成長の様子を多面的に捉えながら進路指導支援に反映させた。 ・自分の将来に向けてより現実的なキャリアデザインが描きやすくなるように進路講演会等における講師や講話内容を精選し、職業観や社会観を醸成させる機会を充実させたが、学年によっては、特別な支援を要する生徒の割合が多いこともあり、結果的にアルバイトの就業率や就職内定率に反映されていない部分は否めない。①に記載したとおり、系統的かつ計画的な進路指導システムを構築し、入学時から実践する必要性を感じた。	A B
4 安全管理・指導	(1)学校安全システムの構築 【市共通項目5】	①防災教育や交通安全教育を推進し、生徒自らが安全に行動する力を育成する。 【管理職・生徒課】 【学校説明】 ・外部講師招聘による交通安全教室（年1回）と自転車点検（各学期1回）等を実施した。 ・9/1に避難訓練（夜間経路確認）と9/5に防災訓練（体験型）を計画した。特に9/5は千代田消防署と連携し、はじめて起震車体験・スモーク体験・水消火器体験を実施することが出来た。	A
5 保健管理・指導	(1)健康教育の充実 【市共通項目6】	①生徒自ら正しい健康管理ができ、安全で規則正しい生活習慣を身に付ける。 【保健室・保健体育科】 【学校説明】 ・給食の摂食率を毎日管理し、給食の摂食指導を契機とした健康教育を行った。また、教科「保健体育」では、医薬品の正しい使用方法や睡眠のとり方、インフルエンザ等の感染症に関する健康教育を重点を置き指導支援した。さらに「保健だより」等で生徒に情報発信し、健康管理の啓発に努めた。	A
6 特別支援教育	(1)学校の実態に応じた校内支援体制づくりの推進 【市共通項目7】	①中学校や児童相談所等との連携を十分に図り、生徒個々の情報収集に努め、その情報を職員間で共有することを徹底し、個に応じた最適な支援に繋げる。 【教務課・特別支援教育担当】 【学校説明】 ・中学校側及び保護者からの情報提供を基にして、当該生徒に対する指導方針を教職員間で確認し指導支援した。担任のみならず、教科指導で全職員が生徒に関わるメリットを活かして、長期的な見通しを立てながら、日々の変化をつぶさに情報共有し、状況に応じて柔軟な支援を行った。	A
7 組織運営	(1)組織・運営の改善 【市共通項目8】	①成果物（データ）等の整理に努め、職員の執務の進捗状況や生徒の情報等がタイムリーに共有できるようにする。また、校外研修会へ参加した職員は、速やかな研修報告を義務付けた。 【管理職】 【学校説明】 ・各分掌及び教科の電子データの系統的な整理及び紙媒体データ（ファイル）等の整理を徹底した。 ・週一度（水曜日）の「清掃の日」を設定し、職員室の衛生面と安全面の徹底を図った。 ・「生徒の情報共有」に関しては随時開催することとし、軽微な変化や情報を速やかに共有することとした。 ・研修会参加者は、研修終了後一週間以内を目処に報告会を開き、速やかな情報の共有を図った。	A
8 研修	(1)研修体制の充実 【市共通項目9】	①定時制教育の現状と課題を踏まえ、在り方生き方教育の充実を期待できる外部講師を招聘し、生徒とともに教職員も学びの多い研修会を企画する。【管理職】 【学校説明】 ・定時制課程に学ぶ生徒が、将来や社会に対して「希望」が持てるように、在り方生き方に良い影響を与えてくれる講師を選んだ講演会を実施した。（平成27年度から2年連続で行った） ・生徒会役員が「事前討論会」を計画し、そこで出た質問事項をまとめて、講演前に講師に情報提供できた。講演中にはメモを取らせ、講師へのメッセージを書くなど、講演の趣旨の定着をより高められる指導支援を行った。質問事項のまとめ方、講演当日の傾聴スキル、物怖じせずキャッチボールトークが出来たことなど、講師からも絶賛されたことは、生徒の大きな励みとなった。	A
9 保護者・地域住民等との連携	(1)信頼される学校づくりの推進 【市共通項目10】	①学校評議委員による学校評価等により教育活動を点検し、改善を図る。 【管理職】 【学校説明】 ・第2回の学校評議委員会で、定時制課程の教育に対して数多くの助言を得た。生徒の活動が「自主的」レベルから「主体的」なレベルに変容していくための意図的な仕掛けとして、「漢字一文字」の実践や「ナイトワーク（試行）」の計画、また、「市定だより」による広報等に好意的な評価を得ることができた。一方で、少数者の利点を生かして、アクティブ・ラーニング（対話的で・主体的で・深い学び）を目指して、恒常的に授業改善しているの、概ね良好な授業風景に映るが、生徒が獲得した知識等を「文章化」することが出来るような指導（支援）が必要なのではないか…、との指摘を受けた。知識・理解の定着度を計る上で、基本的とも言える指摘と捉え、今後の授業展開をはじめとする教育活動全般で意識していきたい。 ②学校だよりや生徒会新聞、またHP等による積極的な情報発信を行う。 【管理職・生徒課】 【学校説明】 ・学校だより（「市定だより」）を年10回以上発行した。（昨年度実績4回） ・生徒会だより（「市定新聞」）を年5回以上発行した。 ・平成28年度より「学校要覧」を作成した。（11月開催の静岡市定時制通信制進路指導協議会で配布） ・HPの更新を「市定だより」を中心に災害情報など積極的な配信を行った。	B A

A	・生徒が職員を信頼していて、コミュニケーションが成り立っていると感じます。・メールなどではない言葉のコミュニケーションは非常に重要である。継続して欲しい。・当たり前のことが、なかなかできない現代にあって、「あいさつ」「身だしなみ」が出来てきて良かった。・授業や生徒の様子を見せて頂いたが、落ち着いていて、キチンとできていて気持ち良かった。・教師の温かい励ましの言葉と態度が、生徒の積極的な行動に繋がっていて嬉しい。
A	・一般化しないで、本校の生徒にとって「身につけさせたい力」を共通理解するため、協議することは大切なことだと思います。・生徒が自らの力で自分の進路を選択・決定し、将来の生活における自己実現が図れるよう組織的に指導されたい。
B	・アルバイトを含め、就業体験は民間の協力が無いと生徒の挫折感を強める結果に終わります。より民間に協力をお願いする場を首長部局と連携して対応するのも良いかもしれません。・定時制の難しさがわかる。就業率アップを目指して頑張ってください。自分がこれからどうしたいのかをじっくり話し合い、そのための指導・助言が大切だと思います。・生徒の希望の実現のため、将来の意義・役割についての理解と学問への興味関心を喚起させる進路探求学習をさらに推進していただきたい。
A	・防災教育を通じ、支え合い助け合うことの出来る力、奉仕の精神と連帯感、深く思いやる心などを育てたい。
A	・食べることは生きること。規則正しい生活の習慣づけの指導を継続したい。 ・規則正しい生活習慣を身につけさせることは、家庭学習も充実させていくことに繋がる。
A	・中学校や関係する機関との情報交換と連携はより密にしていきたい。・情報共有を活かして、教師と生徒、生徒相互の心の交流を深め、温かな人間関係をさらに育てて欲しい。
A	・各分掌及び教科の電子データの系統的な整理が徹底されている様子が伺えた。こうした、仕事の整理や週一度の「清掃の日」の励行は、職員室の精神衛生上に好影響を与え、それがそのまま清々しい生徒指導等に繋がっていると感じる。
A	・生徒と講師とのやりとりは素晴らしいと感じました。・生徒と共に先生方も学ぶことはとても重要であり、講演会が対話的に成り立っている。・講演会の講師との交流の中で大きく成長されたようで大変良かったです。子供は褒める方向に伸びていくものだと思います。・生徒会が主体的に事前討論会を開催し、講演会で生徒が自分の言葉で主張できるようになったことは、指導の成果であり、大変喜ばしい。
A	・是非、今後も学校評議員の授業公開を実施して欲しいと思います。生徒は、外部の人（保護者も含め）が授業参観することに対して、どのような感想を持っているかがポイントとなる。・授業を見学して、アクティブラーニングを目指して先生方が対話している様子が印象的だった。基本的なことを継続して欲しい。・自分の考えを書く、答えを書く、それが本物の力になっていくと思います。書くことを意図的にしていきたい。・アクティブラーニングは授業の何処に入れるのが大事である。授業のすべてがそうになると、知の蓄積が出来なくなる。対話的な学びを活性化させるには教師の技術も必要となる。
A	・できるだけ生徒の姿を発信することは励みになると思います。・生徒一人一人が伸び伸びと学校に通える環境づくりをこれからもお願いしたい。・学校だよりによって情報が共有できる。発行が増えているのは良いことだと思う。・学校だよりは大変わかりやすく、情報を提供し、生徒の心に響く内容もあり、工夫のあとがみられて良い。

学校から 経営のまとめ(成果と課題)
<p>【成果】情報の共有化は昨年度から徹底しており、教職員間での定着度は高い。・校外における研修参加者の報告会も定着し、喫緊の教育課題を教職員がリアルタイムで共有できている。・週一度の「清掃の日」も定着し、美化及び衛生面の向上は教職員のやる気も向上させている。・平成29年度のシラバス完成に向けて、平成27年度から授業改善に着手してきた結果、アクティブラーニングの具現化はもとより、生徒が単位を落とすことがなくなってきた。（学習が知識として定着しやすいように粘り強く指導を継続できている）・少数者の副産物として、異学年交流が必然となった学校行事への取組から、生徒の帰属意識や仲間意識が醸成され、「自主的」から「主体的」な取組みをするようになってきた。・教職員が、生徒の「主体性」を引き出すように、良い距離感と支援の仕方の軽重やタイミングがよくわかるようになってきた。・そうした背景があり、生徒が教職員に信頼を寄せ、安定した教育活動に繋がってきた。</p> <p>【課題】・系統性と計画性を持ちながら、シラバスの完成を目指す、定時制課程の生徒に「どんな力」を身につけさせたいかを明確にすること。（現在キャリア教育を全面的に見直している）・高校生基礎学力テストの導入時ではあるが、県教委を通じ部局等の行政機関や民間企業と連携を取り、定時制課程に学ぶ生徒に社会（人）として「どんな力」を期待しているのかを探り、教育活動に反映させるしくみを構築していく必要性を感じる。・異学年交流によつてのメリットは大きいものがあるが、生徒同士が交流を深めていく様子をよく観察して、少数者が故の人間関係の「煮詰まり」からくるトラブルを予測し、問題行動の未然防止と早期発見及び早期対応に備える一方で、生徒たちの成長の様子を温かく見守る姿勢の両面をバランスよく持ち合わせる（備える）必要性などを、十分に協議共有し指導にあたりたい。</p>

学校関係者評価委員会まとめ
<p>・教職員が生徒を信頼し、そのことで生徒が教職員を信頼することが、コミュニケーション（共有化）の基本になるのではないかと思います。本年年度の定時制課程で取組まれた様々な学校行事や授業改革等において、たくさん成果が出てきています。生徒の主体性を育むために、過程（プロセス）の段階で、いかに教職員側が我慢し、見守る中で適切な支援が出来るかなど、日頃の情報共有の徹底が良い習慣となり、教育活動全般が有意義なものとなっている。</p>